

## 環境マニフェスト・天理

### (1) これまでの経過

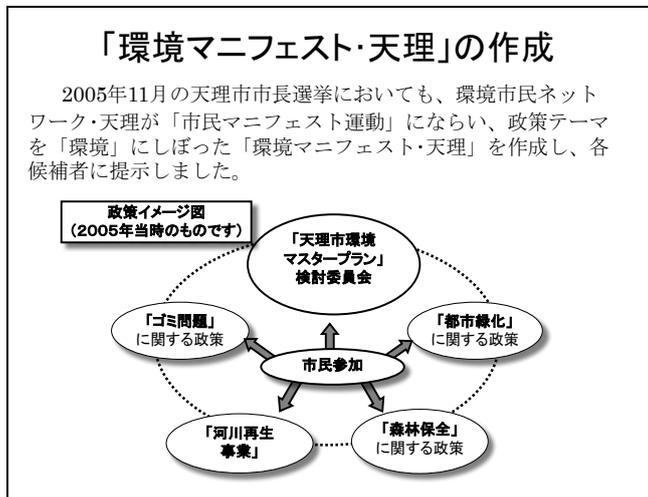
マニフェストとは、事後検証可能な公約である。

早稲田大学教授（元三重県知事）北川正恭氏が「ローカルマニフェスト運動」を提唱し、2003年4月の統一地方選挙で初めてマニフェストが導入された。

奈良県では、政策研究会「なら・未来」（当時・木原勝彬・代表）が「市民マニフェスト運動」を提唱し、2004年の奈良市市長選挙において、地方経済活性化・環境・福祉・議会改革などのテーマでマニフェストが提案された。

「市民マニフェスト運動」とは、主権者である市民が立候補者に対して政策提案書（マニフェスト）を逆提案するものである。その際、特定の候補者・政党・会派を推さず、各立候補者に対して公平にマニフェスト（政策提案書）を手渡す。この試みは奈良市独自のもので、全国的にも注目された。

天理市においては、2005年の市長選において、環境市民ネットワーク天理が環境政策に特化した政策提案を5項目にまとめて作成し、候補者に提案した。まだ、課題が山積みではあるが、ここまで継続的に市民マニフェスト運動が取り組まれている例は珍しいと思われる。



### (2) 主な政策提案と成果

政策分野の提案は以下の通りとし、さらに細かい細目については政策シートを作成した。

- ①総合的な戦略（バイオマスタウン、エコシティ天理構想、環境連絡協議会など）
- ②ゴミ問題（廃棄物発電、ゴミ減量化など）
- ③都市緑化（街路樹再生など）
- ④河川環境（ホタル舞う街づくりなど）
- ⑤森林保全（水源の森づくり、バイオマス発電など）
- ⑥食料生産（六次産業化など）
- ⑦温暖化防止（太陽光、小水力、公共交通機関利用の促進、スマートハウス普及など）
- ⑧その他

総合戦略の「バイオマスタウン」は、2002年小泉内閣において閣議決定された「バイオマス・ニッポン総合戦略」を念頭に置いた政策である。この総合戦略は、残念ながら第1次安部政権以降、テコ入れされず現在に至っている。しかし、天理市においては「エコシティ・天理」構想として、ゴミ問題、都市緑化、河川保全、森林保全などの各政策と連携を図りながら、提案してきた。

成果としては、「天理市環境連絡協議会の発足」「街路樹の再生」「河川環境の改善（ホタルの増加）」「新クリーンセンター（廃棄物発電）建設計画」などがあげられる。

### 2、主な政策提案と成果 (○ 提案)

項目	南 市長				並河 市長			
	2005	成果	2009	成果	2013	成果	2017	成果
環境総合計画	○	着手	○	策定				
総合戦略	バイオマスタウン	○	○					
	「エコシティ・天理」構想				○		○	
				※環境連絡協議会				
ゴミ問題	廃棄物発電	○	○		○	立案	熱利用	
	ごみ減量化	○	△	○	△	○	△	○
都市緑化	街路樹再生	○	天理市管理道路は改善。国・県管理道は悪化				公園も	
河川	ホタル舞うまち	○	ホタルは、年々増加している				○	
森林・生産緑地（農林業）	最終処分場問題	○	業者を提訴	○	解決			
	六次産業化	○		○		○	着手	○
	バイオマス発電	○		○		○		○
温暖化防止	太陽光発電		○	福祉工業団地にメガソーラー建設				
	小水力・バイオマス				○		○	
	公共交通機関利用等の促進						○	
	スマートハウス普及など						○	

## 事例①「街路樹再生」

2005年、天理市の親里大路の街路樹が写真の通り強剪定を受けた(下写真左)。そこで環境市民ネットワーク天理は、街路樹再生の第一歩として、「街路樹健康度調査」を実施した。既述したように、その後、天理市長選においては各候補者のマニフェストに街路樹再生の項目が必ず取り上げられるようになった。街路樹選定に関する意識が高まったこともあって、7年後には、下の写真の通り、健康度が「C」から「A」判定に回復した。なお、判定方法や基準、結果については、別項目「主な調査活動」の「1. 街路樹健康度調査」をご覧ください。

一方、奈良県が管理する国道169号線沿いの街路樹では、一旦回復したものの、2012年ごろから再び、毎年のように強剪定されるようになり、健康度は悪化しました。

今後の課題としては、落葉処理、巨木化した街路樹のメンテナンス方法などを検討すべきと考える。



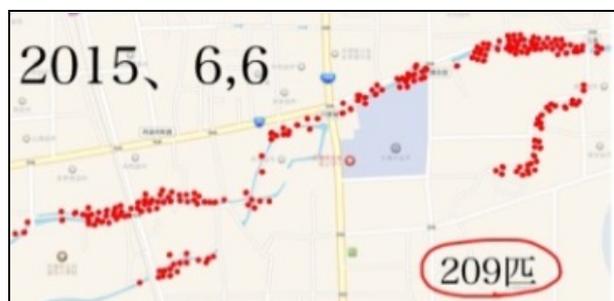
親里大路のイチョウ並木(左写真の2006年時の健康度評価は「C」で、右の2016年時は「A」だった)。

## 事例②「河川環境」

高度成長期には布留川をはじめ大和川水系の水質は悪化した。その後、天理市においては、下水道の普及が進み、現在の普及率はほぼ100%となり、水質も大幅に改善した。

環境市民ネットワーク天理主催のホタル観察会においても(ホタルは、水質判定のための代表的な指標生物)、年々飛翔数の増加を見ている。2014年からは飛翔数をカウントし、次頁図のようにデータ化した。その結果、2015年からはゲンジボタルの確認個体が激増したことを確認している。

増加原因は確定されていないが、水質改善と布留川清掃、街路樹の復活が街路灯の光を遮断するなど、これら複合的な影響が個体数の増加につながったと考えられている。



2014年6月7日の「ホタル観察会」で確認したゲンジボタルの飛翔数は52匹(左)で、2015年6月6日の時の確認数は209匹(右)だった。確認数は4倍に増えた。

### (3) マニフェスト評価

#### 1) 現職候補者における前回の選挙当選時のマニフェスト評価

○評価対象の政策分野

- ①環境政策全般      ②総合的な戦略      ③ゴミ問題      ④都市緑化  
 ⑤河川環境      ⑥森林保全      ⑦食料生産      ⑧温暖化防止      ⑨その他

○評価項目

【1】企画力（総合評価）      【2】市民参画度      【3】体系性について、

政策分野ごとに上記の評価項目を設定し、以下のように5段階評価した。

5段階（1；不足、2；やや不足、3；普通、4；評価できる、5；大いに評価できる）

また、【1】の項目評価は、【2】、【3】の項目を評価した後におこなった。

#### 2) 現職候補者の目標達成度（進捗状況）

○評価項目

【1】目標達成度（総合評価）      【2】リーダーシップ度      【3】組織内連携度（市役所内）

【4】民参画度      【5】情報公開度

現職の候補者については、政策分野ごとに評価項目を上記に応じて設定し、それぞれを既述したと同じ5段階で評価した。なお【1】の項目評価は、【2】～【5】を終えた後に評価した。

	市長	立案			目標達成度													
		企画力	市民参画度	体系性	総合	評価項目				政策分野								
						リーダーシップ度	組織内連携度	市民参画度	情報公開度	ごみ問題	都市緑化	河川環境	森林保全	温暖化防止	食料生産	その他		
2005~09	南氏	2	2	1	3	4	2	3	3	3	3	3	3	2	2	-	4	
2009~13	南氏	2.6	2.4	2.6	3.4	3.6	3.1	3.3	3.3	3	4	4	2	3	3	4		
2013~17	並河氏	2.6	2.4	2.6	3.9	4.4	3.7	3.9	3.7	4	4	4	3	4	4	4		
2017~21	並河氏																	

これまで実施した3回の「環境マニフェスト」評価の結果。

並河健天理市長に対する環境政策評価(環境分野、2013年10月～2017年9月) 評価者：NPO法人 環境市民ネットワーク天理

評価項目 政策分野	立案(2013)			進捗状況(2017,9現在)				コメント			
	企画力(具体性・魅力)	市民参画度	体系性(整合性)	目標達成度(市民から見て)	リーダーシップ(意欲・努力)	組織内連携度	(縦割り行政になっていないか)		市民参画度	情報公開度	
配点	5	5	5	5	5	5	5	5			
環境政策全般	2.6	2.4	2.6	3.9	4.4	3.7	3.9	3.7	2013年(初当選時)の立案段階では、体系性・目標設定がほとんど示されておらず、「2.6」と評価した。4年を経過した現在、市民の目からみた「目標達成度」は、市長としてのリーダーシップを高く評価した結果である。細部についての課題は残るが、前回の「3.4」よりも0.5ポイントアップして「3.9」となった。		
①総合的な戦略	3	3	3	4	5	3	4	4	天理市環境連絡協議会の設立、新クリーンセンター計画の推進とリーダーシップを高く評価した。同時に、今後の戦略的取り組みに期待する。		
②ごみ問題	総合評価	—	—	—	4	4	4	4	4	短期間で新クリーンセンターの用地・資金を確保し、周辺住人との協議や専門家等による検討会の開催を実施したことを高く評価した。	
	減量化・リサイクルの実施度	3	3	3	3	3	3	4	3	分別回収やリサイクル化などは前市長よりの取り組みだが、定着させてきたことを評価した。	
	啓発活動(環境教育など)	—	—	—	4	4	4	4	4	4	他自治体のごみ処理施設への見学会、天理市環境連絡協議会などでの取り組みを評価した。
③都市緑化	新クリーンセンター建設計画	—	—	—	5	5	4	4	5	名阪国道沿いの立地選定は、今後のごみ処理・再生エネルギー・災害拠点などの観点から非常に評価が高いと判断した。ただ、この規模の施設としては手狭で、周辺の土地活用と景観保全に課題が残るが、熱利用については具体的検討を期待する。	
	総合評価	2	2	2	4	5	4	4	4	立案段階では具体性が乏しく評価は「2」としたが、前市長から積極的に取り組んできた街路樹復活への意欲は現在も継続的に取り組んでいる。年々状態も良くなっていることを評価した。	
	街路樹の再生	2	2	2	4	5	4	4	4	市民の意見を取り入れ、剪定方法などの改善し、ムクドリ対策についても職員が尽力した。その結果、親里大路のイチヨウや中大路のケヤキ並木は復活しつつある。だが、落葉の処理や大径木の更新などの課題は残る。	
	その他(公園など)				4	5	4	4	4	天理駅前広場に建設された「コフナン」について、市長のリーダーシップを高く評価した。ただし、植栽されている樹種について、乾燥に弱いカシ類などを採用している点に疑問が残る。また、管理方法についても課題が残る。	
④河川再生	総合評価	2	2	2	4	4	4	4	4	立案段階では、具体性に乏しく、評価2としたが、その後の4年間の市長のリーダーシップを「4」、目標達成度を「4」として評価した。	
	水質改善	2	2	2	4	4	4	4	4	4	下水道普及率は100%近くとなり、環境基準値をクリアしている点を評価した。
	河川の自然再生	2	2	1	5	5	4	5	4	4	立案段階では、具体性に乏しく、評価2としたが、布留川清掃活動に市長や職員が積極的に参加し、ホテルの繁雑期には布留川に面した水道局沿いの街灯を消すなど、ホテルの生息・保護に一定の配慮を示したことから、目標達成度を「5」とした。
⑤森林保全	総合評価	3	2	3	3	4	3	3	3	3	昨年から広がってきた「ナラ枯れ」問題は、景観を損なうだけでなく、ナラ類の樹木の枯死や風倒木化による送電線切断、路上への倒木被害を及ぼす可能性がある。「ナラ枯れ」の原因は、里山の放置であり、里山の更新・バイオマス利用(発電や熱利用)など抜本的なその対策が急がれる。
	保全活動	—	—	—	3	4	3	3	2	2	天理ダム周辺の巡回パトロール、不法投棄が減少している点を評価した。ただ、森林保全の具体的な取り組みがなく、今後の期待としたい。
	地域振興(中山間地)	2	2	2	4	4	3	4	4	4	岩屋や福住などで地域振興の具体的な取り組みをしていることを評価した。これらの取り組みをモデル化し、東部中山間地全体に広げてほしい。
⑥食料生産	総合評価	3	3	3	4	5	4	4	3	3	地産地消・六次産業化への取り組み、子供食堂への取り組みは評価できる。ただ、今後の更なる発展に期待したい。
	地産地消・六次産業化への取組み	3	3	3	4	5	4	4	3	3	天理市ブランディングプロジェクトを高く評価した。しかし、現段階では規模が小さく、選考過程も明らかでないとの意見がある。今後の取り組みに期待したい。
	食農教育への取組み	3	3	3	4	4	3	4	3	3	平成21年に策定された「天理市食育推進計画」に基づいて、幼稚園、保育園、小学校、中学校では、地域の食材を使用し、データも公表されるなど具体的な取り組みが行われている。更なる努力を期待したい。
⑦温暖化防止	総合評価	—	—	—	4	4	4	4	4	4	市庁舎や関係施設では省エネなどの温暖化対策が実効的に行われている。更なる全庁的な取り組みも検討すべきである。
	二酸化炭素排出削減(省エネなど)	—	—	—	4	4	4	4	4	4	市庁舎や関係施設等においては平成28年度に温室効果ガスを5.8%削減したが(平成26年度比)、今後の取り組みが具体的に示されていない。
	太陽光発電などの推進	—	—	—	4	5	4	4	4	4	福住グリーンテックにおけるメガソーラーが稼働したことを評価するが、個人・家庭用ソーラーパネルの設置についても、更に検討を進めるべきである。
	小水力などその他の発電	—	—	—	—	—	—	—	—	—	天理ダム下流の天理市豊井浄水場付近での小水力発電を検討すべきである。
⑧その他	啓発活動(環境教育など)	—	—	—	4	4	4	5	4	4	「天理市環境連絡協議会」や「天理環境フォーラム」の市民活動にも積極的に支援し、市庁舎における「グリーンカーテン」などの取り組みを評価した。
	公用車の環境配慮型車への転換	—	—	—	4	5	5	4	4	4	各課で購入していた公用車を総務課が一括管理しシェアしている。リーズナブルで燃費の良い軽自動車を購入し、使用している。今後は、非常電源用として利用出来る電気自動車の採用も検討すべきである。
	市役所における環境対策	—	—	—	4	5	4	4	4	4	2011年11月にISO14001認証登録を辞退したが、現在は、その経験をもとに同様の取り組みを行っている。
評価方法	2020/6/1	(1)①～⑧の項目の評価は、目標達成度以外の項目を評価し、それらの数値から「目標達成度」を評価した。 (2)①～⑧の項目を評価して、最後にそれらの数値から「環境政策全般」について評価した。							1		
評価段階	—(項目なし)、1(不足)、2(やや不足)、3(普通)、4(評価できる)、5(大いに評価できる)										

「環境マニフェスト」評価結果。

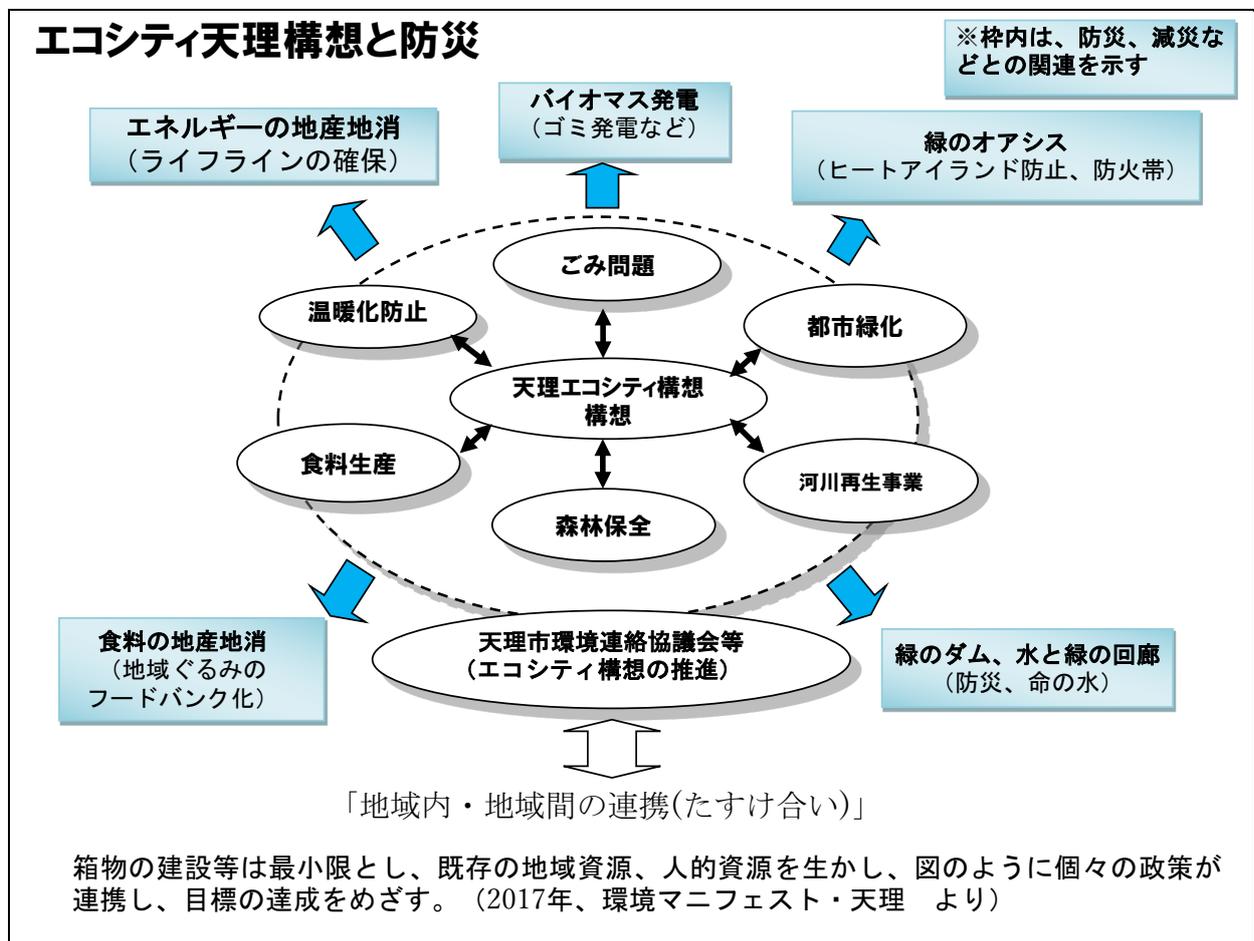
#### (4) 今後の課題

昨今の温暖化による気候変動・気象災害増加、海洋プラスチック問題、森林火災、気象難民とテロなど、環境問題はよりグローバル化している。そのような状況の中で、「環境市民ネットワーク天理」が今後「何をしていくか?」「何ができるのか?」の課題が突きつけられている。

「環境マニフェスト・天理」は、Think globally. Act locally! の精神を具体化する一つの方法と方向性を示していると思われる。

特に、注目している内容としては、天理市で今計画している新クリーンセンターがある。この施設は、2005年から提案してきた廃棄物発電（バイオマスを含む）で、ゴミ処理と同時に発電、熱利用が可能な最新型の施設である。しかも、建設予定地が名阪国道沿いの利便性に富む場所で、このように恵まれた立地は大変珍しいと思われる。また、広域連携型も特徴で、将来起こるであろう東南海地震などの防災拠点、災害後の瓦礫処理、復興など多くの可能性を秘めている。その内容を下図の「『エコシティ天理』構想と防災との関係」にまとめた。今後は、この視点から具体的な内容を提言していきたいと考えている。

また、マニフェストの中で提言して発足した「天理市環境連絡協議会」との関係、本ネットワークとの連携・役割分担を模索していきたいと考えている。



「エコシティ天理」構想と防災との関係。